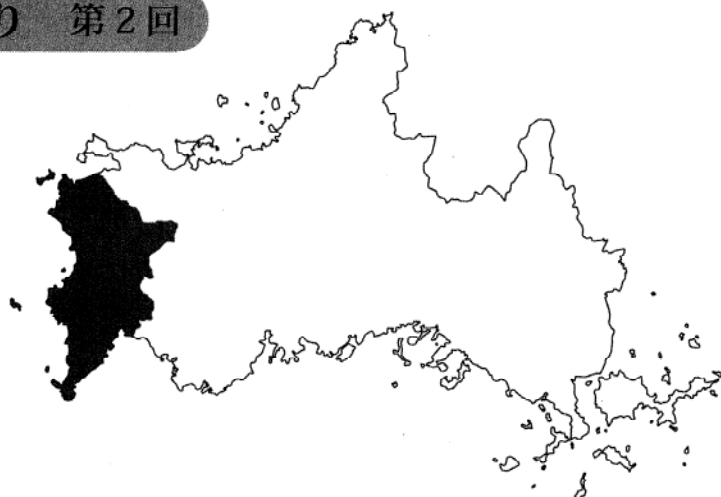


郡市医師会めぐり 第 2 回

下関市医師会



当医師会は、本州の最西端に位置する下関市に、明治 20 年、赤間関医会として発足、紆余曲折を経て明治 40 年に山口県から許可を得て下関市医師会となり、昭和 22 年には、「社団法人下関市医師会」を設立、現在に至ります。平成 17 年 2 月、下関市、菊川町、豊浦町、豊田町、豊北町の 1 市 4 町が合併し、中核市として下関市が誕生、それに伴い、豊浦郡医師会と下関市医師会が平成 19 年 4 月合併、会員総数が 508 名(平成 24 年 8 月 31 日現在)となり、県下最多の会員をもつ郡市医師会であります。

当医師会の事業は、医師会本会、下関市医師会病院、下関看護専門学校、臨床検査センター、訪問看護ステーションの他、下関市から委託を受けている下関市夜間急病診療所と地域包括支援センター、また、組合員の出資により設立された下関医師協同組合があります。

会員共同利用施設の下関市医師会病院は、標榜科目が内科・放射線科、常勤医師 3 名、病床数 64 床の急性期一般病院であり、昭和 37 年、臨床検査センターとして細江町の旧医師会館に設立後、昭和 42 年 12 月、現在の医師会館内に入院施設を有する下関市医師会病院が、看護専門学校・臨床検査センター・医師会本会と併設して建設されました。しかしながら、建設後 40 年以上

が経過、経年劣化が著しいため、早急なりリニューアルが、現在、検討されています。

看護専門学校は、ルーツを辿ると、昭和 8 年に誕生、以降の法改正により幾多の変遷を経て、昭和 27 年に現在の下関看護専門学校を設立、55 年以上の歴史をもつ伝統ある学校であり、「人間性豊かで明日の医療を支える優秀な資質を持つ看護師の育成」を教育理念とし、数多くの生徒が医療現場の第一線で活躍しています。課程は、高等課程(2 年)・専門課程(定時制 3 年)があり、高等課程 1 学年 100 名、専門課程 1 学年 50 名の定員となります。特色は、働きながら学べるということがあげられ、特に、専門課程は数少ない夜間の看護学校です。

当医師会の直近事業としては、医療情報システム事業において、国の交付金を受け、山口県が実施する山口県地域医療再生計画事業の一部である「地域医療連携情報システム導入事業」を行っております。この事業は、国の補助事業であり、事業年度は平成 23 年度から平成 25 年度までとなっており、目的は、診療所と基幹病院との地域医療連携をはかるためのネットワークを構築し、診療に用いる全画像情報をオンライン化して、診療所から基幹病院内の画像情報にアクセスすることができる IT 環境を整えることであります。進

捗状況は、平成 23 年度に地域協議会の PR、域内医療機関の調整、先進事例等の情報収集を行い、今年度は、地域協議会の設置、医療機関への参加呼びかけ、全体会議との連絡調整、導入システムを取り扱う関連業者の決定、システム設計を行い、平成 25 年度には、システム構築を行う予定であります。このシステムを地域医療の連携情報において、有効活用するために、実際の医療現場に役立つようなシステムの構築を目指します。

また、当医師会は、会員間の交流と親睦をはかるため、野球部・ゴルフ部など、運動部・文化部の各種同好会があり、野球部は、会員間の交流以外にも、三師会及び行政の親睦を深めることを目的に大会を開催する等、活発な活動を行っております。さらに、例年、秋季には文化の日の行事として、会員のみならず、会員家族・職員等からも出展を認めている文化祭を開催、優秀な作品は、

表彰及び下関市医師会報に作品を掲載しております。そして、さらなる会員間の交流を促進するため、平成 16 年度からは病診連携親睦ゴルフ大会等を行っております。

少しだけ県外に話を向けますと、下関市は九州に隣接していることから、九州地区との連携を深め、九州首市医師会連絡協議会・九州地区医師会立共同利用施設連絡協議会にメンバーの一員として参画し、さまざまな会議等を通じ、情報交換を行っております。

当医師会は、公益法人制度改革に対応し、来年 4 月に一般社団法人への移行認定を得るため申請中であります。これからも当地をはじめ、地域医療を支えていく医師会として、将来を見据え、医師会活動を行う所存であります。

〔下関市医師会 広報担当理事 安藤 彰〕